

対話「2050 年の 日本の学校教育」 - 持続可能な 未来社会に向けて -

日時：2024 年 **10** 月 **26** 日(土) 13:30～16:30

場所：山梨大学甲府西キャンパス N 号館 N-11 教室(対面開催)

内容：ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)と対話型パネルディスカッション

参加者とともに考える「2050 年の日本の学校教育」

講師：**諏訪 哲郎**

(学習院大学名誉教授、日本環境教育学会元会長)

パネラー：**新井 雅晶**

(杉並区立西田小学校 元副校長)

秦 さやか

(杉並区立西田小学校 教諭)

山梨県内の学校・教育行政関係者、山梨大学教職大学院修了生、在学生及び関係者、本学域教員のご参加をお待ちしております。

【主催】山梨大学教職大学院

【後援】山梨県教育委員会

問い合わせ：山梨大学教育学域支援課

TEL 055-220-8107

E-mail edu-ksk@yamanashi.ac.jp

お申し込みは
こちらから ➡
10月18日(金)までに
お申し込みください。





対 話 「2050 年の日本の学校教育」

- 持続可能な未来社会に向けて -



持続可能な未来社会を構築するには、学校教育はどのように変革される必要があるのかをテーマとします。現行の学習指導要領には「前文」が付され、そこには「一人一人の児童（生徒）が・・・持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と書かれています。それを日本の学校教育で実質化するために、新たに「持続可能な社会の創り手となる時間」を設けることを提案します。さらに、持続可能な社会を構築しようとした場合、環境や資源の制約から現在の拡大・成長型社会に代わる定常型社会へ移行するのが望ましいという観点から、宇沢弘文氏が提起した「社会的共通資本」としての教育にヒントを得て、現在の青少年だけが学ぶ学校から、大人も共に参画し学び合う「地域の学習共同体」への移行を展望します。

他方、現在の日本の学校教育が、子どもたちの多様化や教員の長時間労働など、様々な深刻な課題に直面している実態を踏まえると、将来的に教員の力量形成に不安があることも指摘しなければなりません。教員の長時間労働と力量形成という課題に対して、これからの学校はどうあるべきか、「SDGs 時代の教員の力量形成モデル」を提案します。